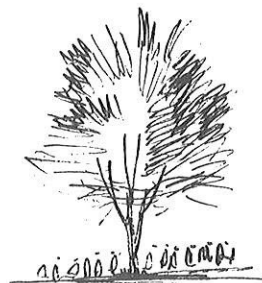


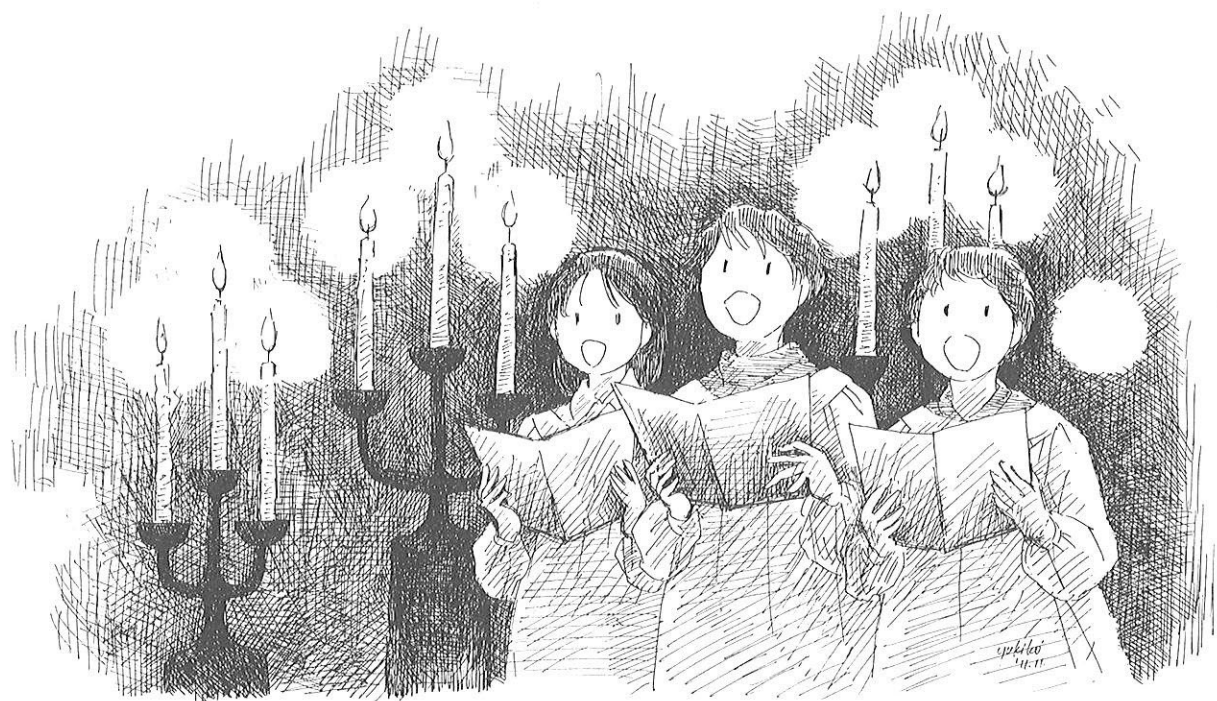
ひかりのこ

光の子



No.150 2011.12.25

●年間聖句 光の子として歩みなさい。(エフェソの信徒への手紙 5 章 8 節)



クリスマスおめでとうございます。

皆さまのお支えに心より感謝申し上げます。

社会福祉法人 光の子どもの家

「キャンドルサービス」

挿絵・中島由起子

「木の実降る」

木の実降る降るまんまるの月が出て

星の夜の畦を枕に捨て案山子

風絶えてよりさびしらの花芒

出来立ての蕨塚にもう傾き癖

菜を間引く日すら荒き風の中

冬近し焚火に風棲みついて

月影のわけても濃きに崩れ築

黛 執

(「春野」主宰)



「神よ、なぜ」——クリスマスに思う——

ルカによる福音書1・34

女子聖学院中学校高等学校 校長 阿部 洋 治

「どうして、そんな事があり得ましようか。」乙女マリアのこの問いを真剣に受け止めることなしに、クリスマスの出来事を正しく受け止めることはできないのではないでしようか。ここで、注意しなければならぬことは、マリアは、喜ばしい可能性が示唆され、本当は嬉しかったのに、その可能性については信じられないので、「どうして、そんな事があり得ましようか」と問うているのではないということ。確かに、御使ガブリエルは、「恵まれた女よ、おめでとう、主があなたと共におられます」(ルカ一・二八)と言いました。ここで「おめでとう」と訳されている言葉は、「喜びなさい」と読むべきことです。しかし、「この言葉にマリアはひどく胸騒ぎがした」とありますように、マリアは喜んではいられなかったのです。「ひどく胸騒ぎがした」というマリアの予感正しかったのです。

御使は「喜びなさい」という。しかし、それにもかかわらず、現実的には、マリアがこれから直面しなければならぬことは、自分がようやく獲得しつつあったしあわせの破綻を意味していたのです。結婚者ヨセフとの関係の破綻であります。いや、それだけではなく、場合によっては、姦淫の罪の宣告を受け、人々の前で処刑されるという運命も担わなければならないほどの重荷を突きつけられたのです。ですから、「どうしてそんな事があり得ましようか」という問いは、「そんなことがあっては困ります」という深刻な訴えなのです。そして、実際、マリアは、ヨセフとの関係において深刻な問題に直面して行くことになったのです。それは、乙女としての常識的なしあわせの放棄を覚悟しなければならぬほどの深刻な問題でありました。そして、実際、結婚者ヨセフとの関係の危機に直面することになるのです。

「クリスマスに祝う」、「クリスマスの喜び」あるいは「メリークリスマス」という言葉が飛び交います。しかし、そこで実感されている「喜び」は、御使ガブリエルが「喜びなさい」とマリアに告げたものといかにかけ離れたものでしょうか。「どうしてそんな事があり得ましようか。」聖書は、数え上げる

誇っているのです。もはや、誰も神に贖われた民とは言えません。神に見捨てられたとしか思えないのです。

この詩篇は、さらに訴えます。「われらは自分たちのしるしを見ません。預言者も今はいません。そしていつまで続くのか、われらのうちには、知る者がありません」(九節)、と。

今、私たちも、「神よ、なぜ」と問わざるを得ない状況の中に置かれております。三・一一の東日本大震災の後、人々は叫びました。「神はいない」「神は死んだ」、と。そうした叫びがマスコミでも報じられました。そして、「教会はこうした叫びに対してきちんと答えなければならぬ」という人々の言葉も聞きました。しかし、いたい、誰が、人々のこうした叫びに答えることができるでしようか。多くの人々が犠牲になり、またこれまで築き上げて来たすべてを押し流され、生きる希望を見出せず、多くの人々が困難を余儀なくされている中で、誰がいたい神に代わって応えることができるのでしようか。もし何か応えようとする人があるなら、それは、被災され

た人々の困難を遠くから見ているからではないでしようか。しかし、この大震災は、遠くにいる者も安閑とはしていられない危機を齎しました。そして、これまで築き上げて来た文明文化の根本を揺るがすほどの危機が迫っているのです。こうした中で、「神よ、なぜ」と、神に向かって問う以外に、私たちは、誰に向かって何を語ることができるのでしようか。

今、私はヨブのことを思い起こします。友人たちは、信仰の言葉をもってヨブを慰め、励まし、解決の方向を指し示します。しかし、ヨブは言いました。「見よ、わたしの目は、これをことごとく見た。わたしの耳はこれを聞いて悟った。あなたがたの知っている事は、わたしも知っている。わたしはあなたがたに劣らない」(ヨブ一三・一一二)、と。ヨブは、友人たちが神に代わって応えようすることに耐えられないのです。友人たちは、「神よ、なぜ」と問うヨブの苦悩が分からないのです。確かに、彼らは、ヨブが重い皮膚病のため苦しんでいることは分かります。しかし、「神よ、なぜ」というヨブの深い問いと苦悩を自分の問いとすることができないのです。ヨ

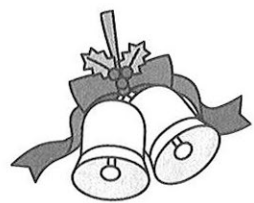
ブを外から見ているようですが、ヨブの問いと苦悩が自分たちの問いと苦悩とはならないのです。こうした友人たちにヨブは言います。「しかしわたしは全能者に物を言おう。わたしは神と論ずることを望む。あなたがたは偽りをもってうわべを繕う者、皆、無用の医師だ」(二三・三四)、と。

ただ、あの三・一一以来、私の心に浮かび上がって来るのは、民族国家の崩壊という中であって、預言者エレミヤがバビロンに捕虜となった同族に向かって語った言葉です。あれほど激しく民族の滅亡を預言して来た人であるのに、「あなたがたは私の警告を聞かなかったから、このような結果を身に受けることになったではないか。今こそ、悔い改めて、神に祈れ」というように、ヨブの友人たちのような語り方はしないのです。彼は言うのです。「イスラエルの民を北の国と、そのすべて追いやり、れた国々から導き出した主は生きておられる」という日がくる。わたしは彼らを、その先祖に与えた彼らの地に導きかえすからである」(エレミヤ一六・一五)、と。また、彼は言います。「主は言わ

ることができないほど、マリアのこうした問いと苦悩に満ちています。そのすべてをここに数え上げることはできませんが、その代表的な出来事を上げるなら、それは、バビロニア帝国の侵略によって民族国家が崩壊した時の人々の叫びがその一つです。

神よ、なぜ、われらをとこしえに捨てられるのですか。なぜ、あなたの牧の羊に怒りを燃やされるのですか。昔あなたが手に入れたあなたの公会、すなわち、あなたの嗣業の部族となすためにあがなわれたものを思い出してください。(中略)敵は聖所で、すべての物を破壊しました。あなたのあだは聖所の中でほえさげび、彼らのしるしを立てて、しるしとしました。」

「神よ、なぜ」と、激しい問いと苦悩が込められています。もはや、ここでは、「主はわたしの牧者であって、わたしには乏しいことがない」(詩二三・二)と信頼の歌をうたうことができないのです。神の激しい怒りの火で郷土が焼き尽くされてしまったのです。敵は聖所をさえも踏みにじり、自分たちが信じる偶像を据え、勝ち



まだシニアボランティアとしてパラグアイに滞在していたときの話に戻る。

パラグアイ日系移住者の「聞き書き」へ向けて

山形大学前学長 仙道 富士郎

私にとっては最初となるパークゴルフ大会へ招待された。日系パラグアイ老人クラブ連合会の主催によるものである。皆さん上手で、とても雨が立たなかった。しかし、話はパークゴルフのことではない。その時に一緒に回った八十歳を超えた一老人のことである。

に移住したが、彼の田舎の小学校の同級生の多くは第二次大戦に従軍し、戦死したということであった。この話は脳裏に長く残った。稀有な人生を生き抜いてきたこの人の話の続きをもう少し聞いてみたかった。また、彼だけでなく、私たちには想像もつかない経歴をしてきただろう日系移住者、特に一世の方々の話をインタヴューし、できれば、それを「聞き書き」として本にまとめてみたいと思った。この八月、二週間の予定でまたパラグアイを訪問した。老人たちのインタヴューが主たる訪問の理由であったが、有名なイグアスの滝のごく近くにある、イグアス移住地の入植五十周年記念式典に出席すべく、その開催日に合わせた日程を組んだパラグアイ訪問で、今回が十五回目の訪パとなった。また聞きと直接伺うのでは大違いで、大げさな表現で失礼なのが、魂を揺さぶられる話をたくさん聞くことができた。一緒に聞き書きの仕事を始め、フェイスブックに「パラグアイ移住地聞き書きグループ」を立ち上げた六人の友人には申し訳ないが、本など出来なくても、私にとっては、もうこ

れで十分意味はあったと思ったほどであった。最初に伺ったのは、岸実五郎さん・淳子さんと言う方のお家で、初めてのこともあり、心に残るお話をたくさん聞くことができた。なんと二十年前、一九九〇年まで、その移住地では電気も水道もいらない生活だったとのこと。夜は、子どもたちは一人一人カンテラの明かりで勉強して、朝起きると鼻の穴は真っ黒で、まつ毛に煤が着いていたという話や、母親が月夜に月を眺めながら、乳飲み子を抱えて泣いていたといった話はいまでも忘れられない。そして、前述した、私がパークゴルフで出会ったもう一度話を聞きたいと思っていたご老人（関さんという名前であることは、当時から分かっていた）は、ここのご主人のお父さんの弟さん（お会いした関さんからみれば叔父さんに当たる人）で、昨年亡くなったということであった。こうした苦労話の一方で、現在の日系移住地の大規模農業の実態は、驚かされるばかりであった。我々の背丈の3/4倍もある大型コンバインダーをまえに、「この器械はかなり高額ではあるが、その作業効率を考えると、数年で元

が取れる計算になるので、購入に踏み切った」という移住地きっての成功者の話は、五十年前に原始林を切り開いて開墾を始めた人たちからのつながりとして想いを巡らすことはかなり難しかった。十二日間で二十一人と一グループのインタヴューを終えた。聞き書きグループの編集担当チーフの野澤星子さんが各録音時間を記載してくれたものを総計してみると、総計約三十二時間となり、我ながら頑張ったものだと思う。三十六時間のフライトで帰国した翌日、お世話になっている特別養護老人ホームの仕事に抜け、その次の日はテニスと、夜は医学部柔道部の飲み会、その次の日はまたテニスと、まさに不死身の状態（とその時は思った）。

ところが、帰国後数日から咳が始まり、なんとそれは一カ月以上も続き、いつも掛かっている医師は、「これはちょっとおかしい」と、大学付属病院の呼吸器内科に紹介。呼吸器機能検査の結果、喘息様病変ということになり、ステロイド吸入で治りはしたが、「年寄のくせにあまりいい気になるな」と咎められた気がしている。

「共育ちカンガルー日記」

(15) ユキちゃんのクリスマス

近藤みちる

森の中の小さなお家に、ユキちゃんという女の子がパパとママと三人で暮らしておりました。ユキちゃんには病氣一つせずによく大きくなっていました。でも一歳になっても二歳、三歳になっても、ユキちゃんはお話することができませんでした。パパとママはユキちゃんとお話がしたくて、いつもいつも話しかけていました。

「何をして遊ぶのか？」「夕ご飯は何が食べたい？」でもユキちゃんは何も答えられず、何もしないでくねくねと。大好きなユキちゃんの気持ちをわかってあげられないことが、パパとママには何よりも悲しいことでした。

今年も冬がやってきました。もうじきユキちゃんにとって四度目のクリスマスです。パパは居間にクリスマス・ツリーを飾り、大きな靴下をぶら下げました。「サンタさんにどんなプレゼントをお願いするの？」ママがユキちゃんに聞きました。去年と同じように、やはりユキちゃんは何も答えられず、何もしないでくねくねと。大好きなユキちゃん

せんでした。ママはユキちゃんの初めてのクリスマスに小さなミトンを編んであげました。二度目のクリスマスには帽子、三度目のクリスマスにはマフラーを編みました。今年もママはユキちゃんのために、暖かそうな毛糸玉をたくさん買いました。そして毎晩ユキちゃんが眠った後に、暖炉の前に腰を下ろして何を編もうか考えました。でも何を編んであげたらいいのか、どうしても思いつきませんでした。（今まで編んであげたプレゼントは、ユキの欲しいものだったのかな？喜んでくれたのかな？）ママは悲しくなりました。そして何も編むことができないまま、クリスマス・イヴを迎えました。夜が更けても、ママは暖炉の前で毛糸玉を抱えたままでした。ふと気づくと、クリスマス・ツリーの前に天使が立っていました。天使はにっこり微笑むと、こう言いました。「クリスマスにあなたの願いを叶えましょう。あなたが一番欲しいものを授けます。」

ママは迷わず答えました。「娘のユキに言葉を授けてください。私達はユキとお話したいのです。」暖炉の火がパチパチと音を立てました。天使は言いました。「残念ながらユキちゃんは言葉を話さない子として生れてきました。ユキちゃんとお話することは叶いません。」天使の言葉を聞いて、ママはとても悲しそうな顔をしました。「愛するお子さんとお話したいのですね。」天使は続けました。「一つだけ方法があります。時間を逆に戻して、もう一度ユキちゃんがママのお腹の中に戻ります。そして言葉を話している子に生まれ変わるのです。ただしその子は、ユキちゃんではありません。」「それは、ユキやユキと過ごした四年間の日々を全て失ってしまうというのですか？」ママが恐る恐る聞くと、天使は静かに頷きました。ママはきつぱりと言いました。「ユキもユキと過ごしてきた時間も、私達にとってはかけがえのない宝物です。失うことなど考えられません。たとえお話しすることが叶わなくとも、私達はユキと一緒に暮らしていきたいと思えます。」天使はもう一度にっこりと微笑むと、ゆっくりと消えていきました。そのとき目が覚めました。ママは夢を見

ていたのです。ふと見ると、天使の立っていた場所に小さな小鳥がうずくまっています。ママは抱えていた毛糸で、小鳥に巣を編んであげました。とても暖かそうな巣で、小鳥はすぐにその中に入って眠りました。夜が明けました。クリスマスの朝です。ユキちゃんは小鳥の歌声で目が覚めました。パジャマのまま居間に降りてくると、可愛らしい小鳥が毛糸の巣の中で、美しい声で鳴いていました。ユキちゃんはすぐに小鳥と仲良しになりました。そして小鳥と一緒に歌い始めました。小鳥にそっくりなとても美しい歌声でした。それはパパとママが初めて聞いたユキちゃんの声でした。鈴の音のように可愛らしくて、とても楽しそうな歌声です。パパとママは嬉しくなりました。ユキちゃんと一緒に歌い出しました。そのときです。（パパ、ママ、大好き）ユキちゃんの心の声が聞こえてきました。歌はユキちゃんの言葉だったのです。それから、この小さなお家に歌声が途絶えることはありませんでした。そしていつまでも幸せに暮らしました。みなさま、素敵なクリスマスを：みちる

エッセイ

展覧会あれこれ

・Sさんにほめられた

十月十一月は、私にとっては展覧会が集中する季節である。芸術の秋という言葉は使い古されているが、私にとっては展覧会の秋とも言えるべきかも知れない。

十月二十九日から十一月六日まで、長野県で行われる展覧会には、先日、絵と彫刻を合わせて八点運んだ。同じく二十九日から十一月一日までは、市内旧地区の文化展。

そして、十一月三日から九日まで、新宿の画廊でグループ展。その上十一月八日から十四日まで、東京駅八重洲口近くの画廊で別の展覧会である。しかも、これらの会期がダブっているのだから、出品する作品作りが大変である。この四つの展覧会に、合わせると彫刻を四点、絵を九点、何とか間に合わせた。

しかし、これらの展覧会だけのために作品を作ったのは全部ではない。或る作品は、以前作ったものに手を加えたり、彫刻であれば石膏で作ったものをブロン

彫刻家 中島 睦雄

ズにしてみたり、そんなことをして何とかやっているということになってしまった。それぞれの展覧会には三十年以上も付き合っているのもあって「今年はパスします」とは言いにくい。そこで、多少の無理が生ずることになるわけだ。

二、三年前、そんな中の或る展覧会に、以前どこかに出品した石膏の作品に少し手を加え、ブロンズにして出品したことがあった。作品の搬入が済んで、陳列が終わり、一息ついていたら時、古くからの親友Sさんがやって来た。彼も、ずっとこの会に出品し続けている。

Sさんは、にこにこしながら私のそばにやって来て「中島さんは大したもんだね。」と言う。「どうして？」と聞き返すと、Sさんは真面目な顔をして言う。「そりやあ大したもんですよ。オレなんかこの展覧会に間に合わせるために、必死で作品を作って、やっと間に合って出品できたんですよ。そこへいくと中島さんは、十年前前に

作って、用意しておいて、ゆとりを持ってこの展覧会に出品してくるんだから、やっぱり大したもんだよ。」と。

何のことはない。この作品は大分前に出品したのだし、もう誰も覚えていないだろうと思っていたのに、Sさんはちゃんと覚えていたのである。

「大したもんだよ。」とほめられたと思ったら、本当は「あれ！この作品は、十年前前に何かの展覧会で見たぞ。」ということなのであった。

・油絵とは

新宿でやっている展覧会に、海の絵と人物を描いた絵、両方とも油絵を出品した。

人物画の方は、薄く絵の具を塗ったもので、海の絵の方は対照的にコテコテとペインティングナイフで塗り込んだ厚塗りの絵である。毎日東京へ通っているMさんから電話が来た。「展覧会で作品を見せてもらいました。二点ありましたが、海の絵の方が油絵ですね。」と言って大笑いした。

Mさんが、なぜ大笑いしたか。これには小さなエピソードが裏にあるのである。

以前私は、秩父へ行って武甲山を描いていたことがある。大分描き込んだのだが、やや薄塗りの絵

である。もち論油絵で。

そこへ、見知らぬ男の人がやって来て、車を止め、私の後に立った。じつと絵を見ていたが、やがておもむろに口を開いた。

「あのね、油絵ってのはね、そういうんじゃないんだよ。そんな薄く塗ってるのは油絵じゃあねえんだ。もっと、絵の具を厚く塗らなくちゃだめだよ。絵の具はうんと使うよ。だけど、油絵ってのはそういうものなんだよ。」とおっしゃる。「ああそうですか、ありがとうございます。」と、私も礼を言う。

すると、その男の人は「オレはねえ、〇〇の文化祭で金賞を取ったんだ。」とおっしゃる。「あ、そうですか、それは素晴らしいですね。」と私も。

しかし、この男の人の油絵論を、私は信じない。薄塗りだって油絵は油絵である。厚塗りのものだけが油絵ではない。

この男の人の理論に従うと、歴史上の天才達の相当数の絵が「あれは油絵じゃない。」ということになってしまふ。

この話を、以前Mさんに話したことがあったので、Mさんはそれを思い出していたのである。「厚塗りの海の絵だけが油絵ですね。」わっはっはっ。

MERRY CHRISTMAS

☆今年のクリスマスには……☆
クリスマスと言えば、ページェントやキャンドルサービスがあります。去年のページェントは聖歌隊をやりました。讃美歌を歌ったりハンドベルで演奏もしました。今年は聖書朗読をやりたいたと思っています。もし聖書朗読に決まったら、音読は苦手ですが一生懸命頑張りたいと思います。

ページェントの後にはクリスマス祝会があって、友だちを呼んで一緒に食事します。去年は友だちを呼びませんでした。去年は友だちが、クリスマス祝会には楽しかったです。特に交換プレゼントは、何がまわってくるか最後まで分からないので楽しいと思いました。

去年もその前の年も楽しくクリスマスを通して、今年も楽しいクリスマスになったらいいと思います。

中二 理奈

☆ケンカをしません☆
クリスマスにはサンタさんにたくさんプレゼントをもらいたいです。ゲームソフト、おけしゅうセット、シールとか色々欲しいです。

今年のクリスマスは他の子とケンカをしたりしないで、仲良くすごしたいです。雪が降ったらみんなといっしょに雪がっせんをしたいです。さむくて楽しいです。

小五 加奈

☆クリスマスもつとやりたい☆

いつもクリスマスはたのしいです。もつともつとやりたいです。たかこさん(担当)とあそびたいです。サンタさんにはベイブレードを二十こもらいたいです。マジックのおもちゃやトラップももらいたいです。ピザをたのんでみんなでたべたいです。

小一 彬

☆受験とクリスマス☆

高校受験を控えているのでクリスマスでも塾があったり勉強しなきゃいけなかったりしますが、クリスマスは楽しみにしています。みんなと一緒においしいご飯を食べて、夜になるとサンタクロースがプレゼントを持ってきてくれます。毎年そうなんだけど、今年もやっぱり楽しみです。

クリスマスイブの夜はみんなで集まってキャンドルサービスします。ひとり一人がメッセージを言います。今年は何て言おうかなと今から考えていますが、やっぱり最初に思いつくのは受験のことです。毎日遅くまで勉強して、たまに中学校でも眠くなったり、なんかイライラしたりすることもあるけど、志望校に合格できるように頑張ります。

中三 真理

☆クリスマスはねないぞ☆

クリスマスは、サンタさんが来るまでねないで、サンタさんをむかえたいです。プレゼントにはポケモンの歌のCDが欲しいです。ページェントはひじかいの役をやりたいです。友だちといっしょにがんばってやりたいと思

います。

小四 健

☆くりすますすだいすき☆

たまごっちのげーむがほしいです。さんたさんがきたらおこしてね。くりすますすけーきをたべたいです。ゆうなのおうちにいかせてね。くりすますすだいすき。

五歳 優奈

☆サンタさんの思い出☆

サンタさんがいつもプレゼントを持ってきてくれるのは夜中です。小学生の時には起きていられたんですけど、去年は布団の中で起きていて、初めてサンタさんにありがとと伝えました。サンタさんは身長が高くて思ったより細くて、どこかで聞いたことのあるような声でした。大きくてきれいな袋に入ったプレゼントを置いていってくれました。中学生になってもやっぱりうれしかったです。

今年もサンタさんを待っています。布団の中で楽しみに待って、サンタさんにまたお礼を言いたいと思います。期待してるよ！

中二 達貴

☆ぼくはひじかい？☆

このまえのクリスマスには、ページェントでひじかいの長(おさ)をやった、みんなのまえでうたいました。ことしもひじかいをやりたいです。ぼくはいつもひじかにしていると云われます。ひじの役はないけど、ひじかいの役はきいてます。サンタさんにはおもちゃをいっぱい

もらいたいです。ベイブレードやゴージャールのおもちゃをもらいたいです。サンタさんにあいたいです。

小二 大輝

☆最後のクリスマス☆

今年のクリスマスは特別なクリスマスです。私が光の子どもの家に来てから七回目のクリスマス、そして最後のクリスマスです。今年は高校卒業後の進路について色んなことを考え、悩みました。介護の専門学校に言って資格を取りたいと思ったり、卒業後に介護職に就いて働きたい資格を取ろうと思ったり……。たくさん迷って、色んな人の色んな話を聞いてさらに迷って、どうしたらいいか分からなくなっていました。大変でした。夏休みを過ぎて、も決まらなくて、高校の友だちが進路を決めていく中で焦って、でも決まらなくて……。十月を過ぎてやっと、就職することに決めました。自分で決めろと言われても、将来のことなんかよく分かりませんでしたが、でも最後は結局自分で決めるしかないんだと思って、今就職活動中です。

これから私が高校を卒業して就職できたとしても、うまくやっていく自信はあまりありません。でもこれまで応援してくれた人たちが「由子のことをいつまでも応援しているよ」と何度も言ってくれます。また迷惑をかけるかもしれないけど、由子なりに頑張っていこうと思っています。

最後のクリスマスを、光の子どもの家のみんなと一緒にめっちゃ楽しみたいです。

高三 由子

季節のおとずれ

竹花家

今年の冬は暖かいのかなあと思っていました。急に寒くなり、あつという間に半袖姿からマフラー手袋の季節になってしまいました。そして、今年もクリスマスが近づいてきました。家では、クリスマスに行う聖誕劇（ページェント）の話題になると、去年天使役をやった楓は「今年は羊飼いがやりたい!!」と言いつちしました。今年も天使のひらひらした衣装を着たいのかなと思っていたので、少し意外な答えでした。理由を聞くと、「天使は去年やったでしょ。だから今度は羊飼いやりたい!」と新しい役にチャレンジしたいと笑顔で答えていました。音楽が好きで清貴や要は聖歌隊、ハンドベルを希望しています。今年中学生になった美也子や要からは「クリスマス：今年も友だちとも過ごしたいんだけどなあ」と中学生らしい発言もチラホラ。

光の子どもの家ではキャンドルサービスやページェントなどクリスマスならではの過ごし方があります。キャンドルサービスでは自分自身に向き合ったり、相手思いやったりする時間を過ごすことができます。サンタさんやクリスマスプレゼントだけではなくクリスマスプレゼントの方をこれからは伝えられればなあと思います。

牧野 由紀子



河のほとり

倉澤家

クリスマスおめでとうございます。

今年も光の子どもの家が最も大切にしているこの時期がやってきました。クリスマスケーキにプレゼント、ライトアップされた街に流れるクリスマスソング：そんな一般的なクリスマスとは異なった「光の子どもの家のクリスマス」。

そんなクリスマスを迎えるために十一月の最終日曜日から準備を始めます。子どもたち一人一人の顔を思い浮かべながら、プレゼントを何にしようか悩み、伝えるべきメッセージを暖めます。

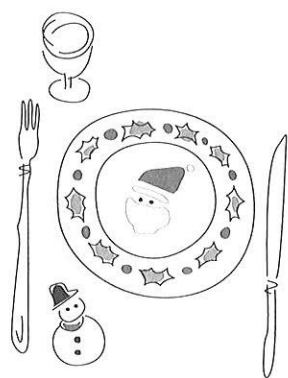
来月四月には社会人となる由子には、自由には責任という重たいものが伴うこと、そして卒業後もずっと応援しているということを、高校受験を間近に控えた真祐には、これまでの頑張りを認めた上で、後悔しないよう最後まで全力で前進しようということを、そして言

語表現の苦手な中学生の奈美には、ことばの大切さといつでも奈美の味方であるということを伝えようと考えました。

普段から思っている、なかなか伝えられないことも、なぜかこの時期になると素直に伝えられ、そして受け取る側も素直に受けとめることができるようです。これが「光の子どもの家のクリスマス」の持つ不思議な力なのかもしれません。

こんな「光の子どもの家のクリスマス」をまだご存じない方は、今度は非ご一緒に…。

倉澤 智子



子どもたちの季節 仙道家

肌寒い季節いかがお過ごしでしょうか。仙道家の子どもたちはそうしたこともお構いなしに外で元気に遊んでいます。ただ、風邪や病気が流行る時期なので手洗いがいはいつもより念入りにするようには話しています。

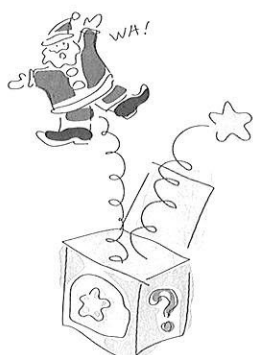
二〇一一年も残りわずか。私にとっては光の子どもの家、仙道家で過ごす初めてのクリスマスです。子どもたちは、クリスマスはたくさん食べて、たくさん遊びたい、サンタさんにもプレゼントを貰うんだと、嬉しそうに話をしてくれます。クリスマスが今から待ちきれないようです。

幼稚園から小学校に上がった男の子は、入学当初ひらがなもかけなかったのが今では漢字の勉強をしています。中学校三年生、受験生の女の子は遅くまで塾で勉強をしています。

私はというと、一日一日があつという間に過ぎ去るように感じます。ですが子どもたちは、一日一日とつともないスピードで成長していると感じます。

皆さまにとって、子どもにとつて、いいクリスマス、いい年を迎えられますようお祈りします。

坂田 光一



光の中で

佐藤家

クリスマスおめでとうございます。大きな災害があった今年、今なお苦しみの中にある人をおぼえ、暗闇の中に光りとしてこられたイエス様の祝福がありますようにお祈りします。佐藤家では昨年度まで三年続けて男子の卒園生を送り出しました。昨年までの三人は光の子どもの家自立進学基金の支援を受けながら大学に進学しアルバイトと学業の両立で忙しい生活を送りながらも有意義な生活を過ごしています。

今年度、高校三年生浩伸は中学・高校と六年間野球部で培った体力を生かし国家公務員の専門職

に合格しました。先輩達の姿を見ながら自分の進むべき道を思い悩んでおりましたが、何か人のために役に立てる仕事があったらいいから選択した進路でした。

あと数ヶ月で社会に旅立ってしまう浩伸に自信をもって送り出せるようにたくさんの時間をつかって色々な話ができればと思っています。彼が仕事や人間関係に疲れた時にいつでも帰ってこれる家を目指して豊かな日常を過ごしていきたいと心を新たにしております。

穴水 祐介



原田家日記

節電の夏が終わわり、矢のように秋が過ぎ、もう今年もクリスマスが目の前です。毎年この時期になると、いつも同じようなイメージが頭を過ぎりワクワクしてきます。そしてなぜかそのすぐ傍らに寂し

さも感じるのです。実際の思い出

との明白な繋がりはないのですが、きまつてクリスマス気分が彩られた街を家族と歩いており、寒いけど安心感に満たされていて、周りを歩いている人々は皆楽しそうに見えるイブの夜の光と影。そして家に戻り、満たされた安心感をそのままに寝床につき、翌朝…。

おそらく自分自身が幼き日に積み重ねてきた家族に守られている感覚や世間が幸せに満ちあふれていることに對する安堵感、そしてそれらを失いたくないが為に心が準備する傍らの寂しさなのではないかと思っています。

受験ストレスの中でのクリスマスやアルバイトだけで終わったクリスマスもありました。それぞれの断片的な思い出は取捨選択され、また美化されて良いイメージが作り上げられて行くものだと思いますが、ここにいる子どもたちが大人になったときに、幼少期をして特にこの時期を本当に幸せで安心して過ごせた日々だと素直に感じられるような関わりを目指したいです。

小西 剛史



日誌抄 = 子どもと創る暮らしの風景 =

2011年7月1日～9月末日

2011年7月現在

幼児8名 小学生11名 中学生11名 高校生6名 措置外4名 計40名

- 3日 ご招待で西武ドームにてプロ野球観戦 感謝
- 6日 光の子どもの家後援会によるがんばろう会 手打ちの美味しいうどんを用意してくださる 当日はお世話になっている小学校の先生方も来られ楽しい夕食を共にする 心より感謝
- 7日 生け花インターナショナル東京支部から4名来訪され子どもたちに生け花教室を開いてくださる 当日が七夕ということで笹を使った生け花を教えて下さる 感謝
- 11日 小学校との連絡会
- 13日 若月健吾牧師による職員礼拝 礼拝奉仕感謝
- 20日 夏休みオープニングパーティ
- 25日 三泊四日でへ小学校高学年登山 長野八ヶ岳の丸山に登頂
- 29日 三泊四日で長野へ小学校低学年登山 悪天候にも見舞われたが無事蓼科山に登頂
- 8月
- 5日 総勢8名で三泊四日の長野旅行
- 8日 総勢10名で四泊五日の秋田旅行 海水浴に加え田沢湖や秋田駒ヶ岳など自然を満喫
- 14日 総勢17名で三泊四日の長野旅行へ のんびりと過ごす中で赤岳にまだ登ったことのなかった美貴と美歩が職員と中学生と共に赤岳登頂成功 途中泣きながらも帰りは胸を張って自信満々の表情
- 19日 聖学院ワーク

- 29日 写真家の福島力様が今年も全員のポートレートを撮影してくださる 五年目となり食堂に飾ってあるみんなの写真を眺めると一人ひとりの成長が素晴らしい写真で記録されている 心より感謝
- 30日 夏休みサヨナラパーティ

- 9月
- 1日 始業式
- 5日 渡部かずき記念礼拝 今年19歳を迎えた元小学校同級生たちが多数集まってくださる いつまでもこうして覚えていてくれる友だちが同窓会のように集う場となっている 心より感謝
- 13日 県監査
- 17日 小学校運動会 皆の頑張りをビデオカメラに収めようと大張り切りの職員多数 一生懸命な表情と笑顔の多い運動会
- 24日 中学校体育祭 こちらもビデオカメラ片手に走り回る職員たち 小学生とは対照的にちょっと恥ずかしそうな中学生たち

〈7～9月の物品ご寄贈者〉

豊国道江 真田明恵 岩瀬小百合 藤井多嘉史 土信田隆 木村栄 内田弘 大塚操 金沢勝一 藤沼畜産 水戸部如玉 ゴルフ・ドウ! 武蔵村山店 菅原まゆみ 浜田文昭 藤田善久 セカンドハーベストジャパン 真中静子 清呂木武幸 根本勝美 保科基晴 他多数の各位様
 ☆多くのお支えに感謝致します 今後ともよろしくお願い致します(洋)

////// ———— 反 射 光 ———— =====

☆クリスマスおめでとうございます
 ☆今年も一年色々なことがありました☆それらを省みて思うことは当たり前の事でした☆私たちの働きは私たちのみでは決して出来ず支えてくださり思ってください祈ってくださいる多くの方々がいて初めて形を成すことができるという事☆また何よりも欠けだらけの私たちを導き辛抱強く用い続けてくださる神さまがいて私たちの働きの良し悪し全てを含めて子どもたちの成長へと繋げてくださるという事です☆私たちの大変さはここに集う子どもたちの大変さに比べたら無に等しいものでしょう☆赤ちゃんがこの世に生を受けたその状態(それ以前も)はまさに受け身そのものの☆性別や名前を赤ちゃんが選ぶ事はできず生まれ出でたその瞬間から保育者を求めおっぱいを求めます☆限りなく無条件に与えられる事を求めながら人は誕生するので☆望みながらも願ひ適わず光の子どもの家に来た子どもたち☆私たちは与えられた出会いに感謝し神さまを見上げながらこの時期を過ごします☆改めてお支え下さる皆様に深く感謝申し上げます☆祝福多きクリスマスをお祈り致します☆

(洋)